

内務事務官 飯沼 一省 著
法學士

都市計畫の理論と法制

良書普及會發兌

都市計畫の理論と法制

飯沼 一 省 著

第一編 都市計畫理論

第一章 總 說

都市は如何なる形態をもつべきであるか換言すれば都市を構成する各部分の土地は如何なる用途をもつて如何に位置すべきであるか。都市の大きさは如何なるべきか都市の膨脹は之を如何に取扱ふべきか。此の問題は都市計畫の根本問題であつて、都市計畫を論ずる者は先づ此の問題に付て確信を持たなければならぬ。

都市の形態都市の構成に付て理論的根據を與へたものに田園都市論がある。

而して私は此の田園都市論を是認せんとする者である。こゝに所謂田園都市論とは英國に於けるガーデン・シティ・プリンシプル (Garden City Principle) を指すのである。都市計畫の眞諦は田園都市論に盡きたりとなすことが出来る。勿論今日すべての國に於て田園都市の建設が可能なりといふことは出来ないのであるが然しながら之が爲に田園都市論の重要さは少しもかはるところがない。依然として都市構築の規準として燦然たる光を放つてゐる。都市行政の局に當る者、都市計畫の技術並に法制の研究に従ふ者は、いかにせばその理論を實現しうべきかを探究しなければならない。

都市の大小、都市の膨脹の問題に付て理論的解決を與へたるものに地方計畫論がある。而して私は此の地方計畫論を主張せんとする者である。こゝに地方計畫といふのは英米に於ける所謂リジョナル・プランニング (Regional Planning) を指すのである。地方といふ言葉は或は中央に對する地方、又は都會に對する地方の意味に解せられる處がないでもないがこゝに地方計畫といふのは關東地方、京濱地方又は阪神地方といふが如き地方の計畫を意味するのである。現在東京都市

計畫區域は東京市及其の附近八十數ヶ町村を包容してゐる。此の廣大なる面積を一の標準として樹てられる計畫は地方計畫なりや否や。私は之は地方計畫ではないと答へる。地方計畫は單に廣き面積に亘つて樹てる計畫をいふのではない。擴大せられたる都市計畫が即ち地方計畫ではない。地方計畫とは人口の大都市に集中するを防止し、過大都市に於ける密住生活の弊を匡救せんが爲に、人口の分散を期することを其の基調となすものである。尤も人口の分散に付ても二つの意味があることを注意しなければならぬ。即ち産業革命以後大資本の集中、大量生産又は大量取引の行はるゝに従ひ、住宅と仕事場とが分離し、商工業地域から住居が分散する傾向を生じた。此の現象を目して同じく人口の分散と稱する場合がある。此の意味の人口分散の傾向は夙に生じ、今日に於ては既に或る程度の弊害をさへ伴つてゐる。地方計畫の期望する人口分散はかゝる分散ではない。即ち一都市の内部に於て住居と仕事場との分離するをいふに非ずして、都市と都市との間に於て分散の關係を生ずること、換言すれば集中及分散 (Centralization and Decentralization) の現象の發生すること之即ち地方計畫の理想とする所でなければ

ならぬ。

都市計畫に付ての私の理想は、各都市が田園都市の理論に従つて構成せられ、而して之等諸都市が地方計畫の理論に従つて基布配置せらるゝことにあるのである。則ち次章以下に於て田園都市論及地方計畫論を述べなければならぬ。

一九二四年和蘭アムステルダム市に於て、各國都市計畫の權威を集めて開かれたる國際都市計畫會議は、將來に於ける都市發展を指導すべき原則として次の七箇條の事項を決議し、以て過去の失敗を繰返さざらんことを期したのである。其の内容は何れも田園都市論及地方計畫論に影響せらるゝ所極めて大なるものがある。即ち此の兩理論は今や世界を風靡しつつあるものと見る事が出来る。

- 一 大都市の無限の膨脹は決して望ましいことではない。過大都市の状態を見て普通の都市は大いに警むる所がなければならぬ。
- 二 過大都市の發生を豫防する一の方法として、衛星都市を作りて人口を此處に分散せしむることを考慮すべきである。
- 三 無限の蔓の海を現出することを豫防するがために、都市の建物ある部分が

農耕地牧場等の綠地帯をもつて圍繞せらるゝことは望まじきことである。

四 自動車乗合自動車等交通の極めて急激なる發達は將來の交通問題に付て、その局部的なると將た又都市間なるとを問はず特別なる注意を拂ふ必要を生ぜしめたのである。

五 地方計畫を準備することは大都市の將來の發展のために必要である。數箇の大都市が相互に接近して存在する場合、又は數箇の小都市が大都市の周圍に隣接する場合に於ては殊に然りとする。此の地方計畫を準備するに當りては前述第二第三及第四に付ては殊に注意を拂はなければならない。従つてこの地方計畫は單純なる都市擴張計畫であつてはならない。否むし其の疆域全體が連續的に何處までも開發せらるゝことを豫防するやうな設計でなければならぬ。

六 地方計畫は彈力性を有し、事情の變化に應じて變更し得べきものたることを要する。但しかゝる變更は公益上の理由ある場合に限り行はるべきである。

- 七 都市計畫又は地方計畫に於ては、その計畫に效力ある限りは、一定の目的を有する地域として定められたる土地は必ずその用途に供せらるゝことを確保し得る力が興へられなければならない。(註)

註 International Town Planning Conference, Amsterdam 1924, Part II Report, p. 55 参照

第二章 田園都市論

第一節 總論

第一項 田園都市なる名稱の起原

英米においてガーデン・シティといふ言葉が動もすれば誤用せられやすいと同様に日本においても亦田園都市の名稱は濫用せられてゐる。田園都市とは屢々誤解せらるゝやうに田園のなかに撒きちらされたる鄙びたる都市の謂ではない。或はまた大都市の郊外における住宅の一團をいふものでもない。これ等は不便といふことの外に何を意味するであらうか。抑々田園都市論が都市計畫の部門

において重きをなす所以のものは、一の特別なる理論をもち近代の産業的國家における産業都市の計畫に付て古來の都市生活の傳統的理想と少しも矛盾を生ぜざるものあるに由るのである。われ等の都市は生活をする上に、また活動を爲す上に便利な場所でないならばならない。また衛生的な場所でないならばならない。更に又美しき愉快なる場所でないならばならない。田園都市論の主張するところは實にこゝにあるのであつて、都市計畫の目的も亦實にこゝに存するのである。

田園都市なる言葉のはじめて用ゐられたのは北米合衆國においてである。一八六九年紐育の豪商アレキサンダー・チニスチュワート(Alexander H. Gottschalk)はその使用人およびその他の紐育の労働者のために模範的住宅地を經營して理想都市を建設する目的をもつてロングアイランドのヘムステッドに八〇〇〇英町の土地を購入し、鐵道をもつて紐育と連絡し、中央には中央公園停車場クラブハウスを設け、廣き竝樹街を築造してこれをガーデン・シティと呼んだのに始まる。元來スチュワートはこゝに工場をおく意思はなかつた。従つて當初は純然たる郊外住宅地として發展したのであるが、恰も他の郊外地が企業家を吸収するやうに、この

ガーデン・シティにも現在においては數箇の大工場を見るに至つた。

第二項 ハワードの田園都市論

このスチエワートの創設したる住宅地はその名稱こそガーデン・シティと呼ばれたけれども、英國に於ける所謂田園都市論とは直接何等の關係をも持つてゐるわけではない。英國において田園都市なる言葉のしきりに用ひらるゝに至つたのは、實に一八九八年に倫敦において出版せられたるエベネザ・ハワード (Ebenezer Howard) の「明日」^{トモ}と稱する論文中に現はれたる結果といはなければならない。この「明日」は一九〇二年には「明日の田園都市」^{トモ}と改題して出版せられた。而して今日英國において田園都市論と稱せらるゝところのものは、このハワードの提唱する理論を指すものに外ならない。

讀者は先づ現在は純然たる農耕地たる六、〇〇〇英町の土地を一英町當り四〇磅の割合をもつて購入するものと想像しなければならぬ。かく彼はその「明日」の第一章の筆をおこしてゐる。その購入費總額二四〇、〇〇〇磅。(この價額は一八九八年當時における農耕地の平均價額であつたのである。) この費用は擔保附社

債券をもつて支辨せられる。而してこの購入したる土地は、第一には社債券所持人に對する擔保として、第二には田園都市の住民のために保管するの意味をもつて信託しなければならぬ。市街地はこの土地の中央に約一、〇〇〇英町の面積を占めて建設せられる。六線の竝樹街がこの都市を六つの同様な部分に分割する。中央には公園がなければならぬ。その中には公共建築物が位置し、その周圍には商店等を包含するアーケードが立ち並ぶ。この市街地に於ける人口は三〇、〇〇〇人に限定せられる。建築敷地の平均面積は間口二〇呎奥行一〇〇呎乃至一三〇呎である。共用庭園もあり、共用厨房もなければならぬ。市街地の外側は循環鐵道に面して工場倉庫が位置する。五、〇〇〇英町の農業用地は計畫中の一部として農業上の目的のために適當に開發されることを要する。而してこの農業地帯内における人口は二、〇〇〇人と限定せられる。

この都市の總豫算は地代をもつて支辨せられる。この地代の總額は第一に六、〇〇〇英町の土地購入に要したる費用の利子を支拂ひ、第二に元本償却基金に充當し、第三に各市町村において稅收入をもつて支辨するところの、公共事業を築造

維持し、第四に社債償還後においてはその剩餘金をもつて養老金制度もしくは傷病保險その他の道を講ずるに充分なるものと考へられる。元來都市と農村との差異は種々の點にこれを見出すことが出来るけれども、その甚しきこと地代の右に出づるものはあるまい。倫敦のある場所においては地代は一英町三〇、〇〇〇磅であるに對して、農耕地としては一英町四磅の地代といへば飛切りの高い地代である。この非常なる地代の相違の因つて來るところは殆ど全く一方には多くの人口が集中し、他方においては人口が少くなるといふことの結果に外ならない。而してこれはある個人の力に歸すべきものではない。これは屢々不勞増價と呼ばれる。言葉をかへて謂へば共同所得増價である。従つてこれはこゝに移住したる人々全體の財産とならなければならぬ。註一

ハワードは尙この外行政、經濟、土木、公企業、農業選舉等の事項について論じてゐる。而してその思想の歸著するところは都市生活と田園生活との健康にして自然的なる、且經濟的なる聯結にあるのである。即ち從來は都市生活にあらざれば農村生活、農村生活にあらざれば都市生活、二者その一を擇ばなければならぬもの

のごとくに考へられてゐた。然しながら茲に第三の方策がある。それは即ち最も活動力あり精力ある都市生活のすべての利益が、田園の樂しさ、美しさと完全に結び付くところのものであると論じてゐる。これがハワードの所論の骨子であるが、かゝる思想の生れ出でたる所以のものは決して偶然ではないのである。當然生るべくして生れた。即ちこれについては近代における都市の弊害および農村の缺陷を考察しなければならぬ。

第三項 田園都市論發生の緣由

一 都市經濟上の弊害 現在の狀態から觀察して大都市は經濟上適當なる組織をなせるものといふを得ない。いふ迄もなく大都市は各種市場の中心であり、工業に對して勞働供給の源泉であるが然しながらこの利益たるや高い地代と高い勞賃とによりて全部相殺されてしまふのである。經濟および商業の集中といふことも曾ては必要缺くべからざることであつたかも知れない。けれども電信電話、郵便および銀行の制度が今日のごとく發達したる時代においては、經濟生活の集中といふことは、遙かにその價值を減じてしまつた。しかのみならず勞働

者が毎日その通勤のために費さなければならぬ二時間乃至三時間の時間はこれは非常なる經濟上の浪費である。都市の内部における密住生活は當然住宅供給數を減少する。労働者は高い賃銀を得ても日々の往復の費用、高價なる日常物價のために差引何等獲るところがない。

二 都市の社會的弊害 これを社會的に見、また教化の上から觀察した場合には、大都市は殆ど推賞に値する何ものをも持たない。その技術上または政治上の活動は少數の一團の者に壟斷されてしまふ。大多數の市民の生活状態は教養を受くる機會を奪はれてしまつてゐる。大都市には意匠の美しさが無い。多くは塵埃にみち、喧噪にしてかつ醜惡美觀の上からいつてもまた衛生上からいつても必要缺くべからざる自然を離るゝこと極めて遠いのである。大都市はまたあまりに大きくして手のつけやうがない。従つて自治的觀念に乏しい。傳統といふものもなければ理想もない。

三 農村の缺陷 一方においてまた農村の衰滅はこゝ數年來の顯著なる現象である。新たなるもの流行力、進歩、これ等のものがすべて都市に集中して、而し

て都市の街路は往來の人をもつて満たされ、新聞紙のごときは一日十回も發行せらるゝところすらあるのである。之に反して農村の状态如何と見れば、陰鬱の氣にみちて、回復の望ありとも見えない。而してその小天地は社會的の壓制主義を已むなくするのである。何となれば農村における労働者はかけがへのない生活をおくつてゐる。彼等の住む家は一つしかない。その子弟をおくることの出来る學校も一つしかない。仕事を授けてくれる雇主も一人しかない。萬事がこの調子である。かくの如くかけがへのない生活なるが故に自由といふ觀念はあることを得ない。かくして農村の労働者が獨立の地位を贏ち得るといふこともない。その希望が達せられるといふこともない。従つて農村の單調は何時までも緩和されることがない。

四 工業の都市集中 農村のこの沈滞にひきかへて大工業都市の紛然雜然たる有様は如何。商店は色彩を強烈にして一砂時と雖も他に後れんことを怖れてゐる。協同と敵對とが興味ある種々の形體をとつてあらはれる。娛樂や興行物が人を呼んでゐる。政治がやかましく論じ立てられてゐる。その真か迷かは

別問題として兎に角物事が動きつゝあることを感じさせる。明日はもはや今日とはちがつてゐるかも知れない。何人かに何事か起つてくるかも知れない。かやうなことを都市の住民は心ひそかに期待してゐるのである。

然るにこの現象は過大都市となるに至つて多少異つて來る。即ちその延長して已まざる周邊部の有様を見よ。そこは都心部からはもはや手も届かぬ程の遠き場所に位置してゐる。そこには恰も農村の住民とちなじやうに、變化もなければ發展もない沈鬱なる退屈の中に蠢きつゝある不衛生地區の住民を見出すのである。事實はかくの如くであるにも拘らず、活動せる環境と冒險とを求めてやまざる農村の青年はこれに惹き付けられて郷土をすて、來り、再び歸らうともしない。

この都市と農村とのあまりに甚しい對照は、農村改良といふが如き假面をもつて蔽ひかくすにはあまりに明白であつた。假に農村の住宅問題が改良せられ、農村の文化がすゝみ、労働者の需要が都市において減少し農村において増加したとしても猶ほ農村の住民は農村をすて、都市に集中するといふ現象を呈するにち

がひない。何となれば彼等は都市のもつてゐる社會的吸引力にひき込まれて行くからである。

今日工業が大都市に集中するのには二つの原因がある。即ち一は大都市の社會的吸引力が都市をしてすべての労働の貯藏所たらしむるが故であり、一は他に工業の行くべきところがないからである。農村は到底その需要に應ずることは出來ない。また次第に衰へつゝある小都市にはたとひ敷地、動力その他の便宜を提供するといふ條件であつても、企業家は其の新らしい工場をもつて行かうとは思はないだらう。さればと云つて非常な大規模な工場でない限りは特に新たな町をこれがために造るといふことも不可能である。元來設備の整つた小都市はその利益ある點において大都市に取て讓るものではない。たゞ悲しむべきことには一つもないのである。こゝに於てか從來工業はやむを得ず古き都市に集中したのであるが、かゝる古き都市は産業状態が今日と全然異なる時代に出來たものである。従つて今日の要求を充足することが出來ないために之に應ぜしめんとして常に多額の經費を投じてゐる。

五 工業分散の新傾向 然るにいまや工業が都市の利便と労働の貯藏と廉價なる土地の利益とを併せ收めんとする機運がまことつゝあるのである。これにおいてか幹線道路に沿へる市外のある地點が發展する。而して労働者は都市の内部または郊外地に住居を構へて汽車または電車をもつて往復する。かくして新たなる補助的中心が出来上り、これが暫くの間は小都市としての利益を享受する。けれどもいかにせんこの補助的中心には大さの限度がさだめられてゐないために、何時しか大都市と連擔してしまふ。この現象は一見恰も工業の分散のごとくであるが、事實は然らずして依然として古き求心的方法たるの域を脱しない。かゝる方法は社會的に見て甚だ不都合である。この結果として都市はますます收拾することが出来ない程の大さに達し、交通量はますます増加するにいたるのである。此の時に當つて何等かこれを救済する方法を案出するにあらざれば、現在の弊害は益々その甚しきを加ふるにちがひない。即ち工業は愈々都市に集中し、都市において擴張せられ、都市をして愈々不衛生的なる醜惡なる場所と化し了るべきは疑を容れぬ。農村改良の試みは或は多少の成功を見るかも知れな

い。しかも希望に充ちたる農村の男女は農村にとどまることを厭ふにちがひない。澤山の小兒が生まれても、大都市において數多殺されてしまふ。しかも小都市は不斷にその衰退の坂を降つて行く。

近來都市改造運動の漸く盛なるにつれて起つた現象の一は郊外地の計畫である。この所謂田園郊外(Green Belt)は從來の方法にまさること勿論であるが、然し動もすれば既に業にあまりに大きくなつた都市をしてさらに大ならしむる缺點をもつてゐるのである。また第二の現象としてあげることの出来るのは不衛生地區の整理これであつて、即ち密住地區に大街路を新設し空地を留保するの計畫を実施するのである。これ亦必要なることには相違ないが然しながら今日の事情においてはあまりに多額の費用を要してしかも徹底的なることを得ない憾がある。而して若し此處を追はれたる労働者のために之に代るべき新小都市を建設するにあらざれば、この改良事業も亦結局大都市をさらにその周邊において膨脹せしめ大都市の弊害を更に増大するにいたるだらう。都市の衛生状態は少しはこれによりて改良されるかもしれない。然し家庭と仕事場との往復に要す

る費用と時間とは増加し、都市の労働者と田園との接觸は益々不可能となるであらう。

産業革命によりて醸しだされたるこの弊害はかくして日を追うてはげしからんとしてゐる。而して之を改良すべき道は何等講ぜられてゐない。この弊にたへかねたる工業が、分散せんことを欲しても各種の事情はこれを阻むでゐるのである。シエレーはかつて都市における工場制度の醜さと殘酷さを叫んだ。けれどもそれは空を過ぎゆく聲にすぎなかつた。世人は彼の言葉をきいて、彼に許すに天才の名をもつてしたけれども、自らはその「マンチエスタ」を築きあげるべく運ぶ歩をとめやうとしなかつた。第十九世紀を通じて有識具眼の士は鬱血せるが如き状態にある都市を批難して衰滅の農村のために萬斛の涙を注いだけれども、何人もこれを意に介せざるものゝ如くであつた。かくして人口はたえず都市を指して流れ來り、遂に英國に於ては全國人口の八〇パーセントが都市住民にして、二〇パーセントが農村生活者たるに至り、また三〇、〇〇〇平方哩の面積を有するスコットランド全體の人口が、一二〇平方哩の面積を有するにすぎざる

倫敦^{カウチー}府の人口と相匹敵し、そのスコットランドに於ては全人口の四分の一は實にグラスゴウの住民たるが如き現象を呈するに至つたのである。

第四項 第一田園都市レッヂウオース

ハワードの「明日は實にかゝる時代において生れ出でたのである。本書の公にせられてより間もなく、此の思想を宣傳せんがために田園都市協會^{ガーデン・シティ・アソシエーション}の設立を見るにいたり、一九〇三年には會社法^{コンパニー・アクツ}に依り創立せられたる第一田園都市會社^{ガーデン・シティ・アソシエーション}が、ハートフォードシャーのレッヂウオース^{Redditch}に大面積の土地を購入するにあよんで、田園都市論は單に一箇の抽象論にあらずして具體的例證を有するにいたつた。この第一田園都市會社は三〇〇、〇〇〇磅の資本金を有し、四五〇〇英町の土地を買収して、こゝにハワードの提唱せる計畫に基づき、工場と三〇、〇〇〇の人口とを有する都市を建設せんとしたのである。而してその株主に對する配當金は五分に限定せられ、もしそれ以上の利益があつたときはこの公共團體自體に歸屬するのである。會社設立趣意書中には次のやうな言葉を見出すことが出来る。この計畫の特徴となすべきところはこの都市の人口を三〇、〇〇〇に制限し、

土地の大部分を農業用地として留保し、株主に對する配當金を制限することである。而してまたその長所として擧げることの出来る點は、住民自らが創造するところの地價の増加を、その利益として取得し得ることを知つて満足することである。この二箇の原則はまことに明瞭であり、かつ根本的なるものであつて、實にレッヂウオースの特徴を形づくるものである。レッヂウオースはその外にもなほいろいろ特記すべき事柄をもつてゐるのであるが、上述せるところは實に基礎たるべき事項であつて、(第一)都市をもつて農業と機械工業とをもつて組成せらるゝ有機體なりとする觀念と、(第二)地價に對する社會的要求の存在とは、まことにレッヂウオースをしてレッヂウオースたらしむるところのものであると稱することが出来る。(註二)

レッヂウオースはいまや人口一、五〇〇人(一九二二年調)の都市として發達しつつあるのであつて、その住民の大部分は工場労働者であり、その工業は各種の方面に亘り或は印刷工場あり、製本工場あり、自動車工場あり、コトセツト工場あり、其他種々の輕工業がこゝで經營されてゐる。かくの如くこれ等の工場は比較的

小規模であつて二〇〇人乃至四〇〇人の職工を使用してゐるが、その種類は極めて多種多様である。都市の住民全部がある一種の職業に従事するといふことは危険なことである。明け暮れ見聞する所は總てこれその職業の範圍を脱せずとせば、都市住民は數年を出でずして精神的に不具者になつてしまふだらう。レッヂウオースの工業が各種の方面に亘つてゐることは實に都市としての安定と權衡とを確保する所以である。又その住民中には勿論市内の工場と何等關係なき者もない事はないのである。斯の如くレッヂウオースの社會生活に於ては都市計畫の效果といふものが強く感ぜられる。不良住宅は茲に於ては見ることは出来ない。そして田園的雰圍氣が都市の外観の上に反映せられてゐる。而かも獨立性のない市街地若は郊外地とは異つて、どこ迄も一つの單位としての完全なる有機體としての都市の特徴は悉くこれを具へて居るのである。

第五項 ウェルキン田園都市

一九一九年にいたるまではレッヂウオースは世界に於ける唯一の田園都市であつた。しかるにこの年にいたつて第二の田園都市を建設せんとする議が起る

にいたつた。而してこの計畫は次のやうな目的をもつてゐる。場所はやはりレッチウオースと同様にハートフォードシャーであるが、倫敦から二十一哩の距離に在るウエルキンの附近に全然新らしき獨立せる工業都市を建設して、もつて大都市の工業ならびに人口の膨脹に備ふるがための正しき道を示さんとするのである。即ちこの計畫を樹てたる人々から見れば、當時の英國における住宅問題はまさに邪道に陥らんとするの危機に瀕してゐたのである。これを正道にひき戻して過ちなからしめんがためには、田園都市の理論を高唱してこれに従はしめねばならぬ。何となれば今もしこれに對して何等かの科學的方法を宣傳して之によらしむるにあらざれば、この國家的大計畫もその大部分は徒らにこれを大都市の周邊に添附せしむるといふ舊式なる、愚劣なる方法によつて行はるゝにちがひない。而してこれ等の大都市たるやすでにすでに過大的状態をあらはしてゐるのである。元來田園郊外なるものが決して眞の解決策と稱することを得ざるものなることは前述せるところの如くである。なる程この田園郊外はテネメント・ハウスには勝つてゐるかも知れない。しかし都市の中心からあまりに距離が

遠いために、その朝夕の往復は労働者にとりてはあまりに重い負擔となるのである。

こゝにおいてかこの第二田園都市會社の計畫は住宅に注意を拂ふと同時にまた工業上の便利に重きをおいてゐる。衛生的なる設備の完備せる工場が交通上の便利と科學的に結び付けられて集團する。而して労働者の住宅からは極めて容易に到達し得るやうに計畫せられる。またこの都市も所謂田園都市の理論に基いて構築せらるゝのであつて、宅地として利用せらるゝ面積は制限せられその他の部分は農業地帯として永久に留保せられる。その人口は四〇、〇〇〇乃至五〇、〇〇〇に制限せられ而してこれ等の人々に對しては社會的慰樂的かつ都市的要求はすべてこれを興へることが出来るやうに努められるのである。換言すれば倫敦から獨立して、自己の力強き生命を有する自足的都市を創造せんとするところにその目的は存するのである。この第二の田園都市會社がウエルキン田園都市會社といふ名稱のもとにいよく設立されたのは一九二〇年五月のことであつて、株主に對する配當は七分に制限されてゐて、其の以上の利益は都市自體に

歸屬することゝなつてゐる。

第六項 衛星都市としての田園都市

ウエルキン田園都市(Welwyn Garden City)の建設によつて田園都市論はその實際運用上において一飛躍をなしたるものといふことが出来る。何となればレッチウォースの場合においては全然新たなる田園都市の一例たるに止まつてゐたのであるがウエルキン田園都市にいたつては過大都市との關係における田園都市なるものを例示するにいたつたからである。即ちウエルキン田園都市のある所は全く倫敦の勢力圏内であつてその周圍こそ農村の状態を呈してゐるけれども、少し離れたところには南にも北にも倫敦に従屬せる大住宅地がある。倫敦より汽車にて三十分程にて達しうるところのウエルキンも亦郊外住宅地として開發しやうとすれば勿論出来ないことではない。けれどもこれは發起人の意思とはさはめてかけ離れたことである。ウエルキン田園都市は實に工業的中心として計畫された。しかも倫敦の内外における企業家が従來の經營地をすてゝ集り來るやうな工業都市として計畫されたものである。倫敦の中心より道路上をはし

れば一時間にしてウエルキンに達することが出来る。従つて貨物の集散のごときは易々たるものである。またテムス河のドックや埠頭に達せんとすれば倫敦の中心を通過せずして行くことの出来る長所をそなへてゐる。(註三)

ウエルキン田園都市はかやうに倫敦から近いのであるがこれがために倫敦の膨脹によつて併合されてしまふ虞れはないであらうか。この點についてはウエルキンは相當の距離をへだてゝゐる。而して農業地帯として永久に留保せられたる土地に圍まれたるその内部に、道路と鐵道との關係を顧慮して工場や労働者住宅が集團をなしてゐるのであるから一つの都市的單位として明瞭に維持せられることが出来るのである。即ちこの新都市は倫敦の衛星都市(Satellite Town)として、或は女兒都市(Daughter Town)として大倫敦の増加する人口を倫敦の大面積をいやが上にも増加するがごときことなくして處置すべき方策を示すものである。従來の舊式なる方法によれば田園における靜かな町や村が何時の間にか倫敦に呑込まれてしまふのである。これまで倫敦を養つてゐたところの附近の農業用地は家屋の荒野と化してしまひために倫敦の混雜と醜狀とはますます甚しく、都

市として救ふべからざるにいたるのである。既に第十七世紀においてジョン・エヴリンは、大火災後の倫敦の復興に際して、市外十哩の圏内においては郊外地の發達を阻止し以て原^{ウチカキ}市を維持すべき旨を提唱してゐる。勿論これは一つのユートピアン・アイデアであつて、これをこのまゝ實行することは不可能であるが、然しながらこの原則をある程度において採用する努力がなさるべきであつたのである。しかも倫敦は拱手して過ぎて來た。その結果として第十九世紀の半を過ぎざるに早く既に倫敦の周圍は投機的建築業者の好餌たるに委せられてしまつた。嘗ては風趣の豊かな田舎道や園圃遊樂地といふやうなものが、無味乾燥な街路の列によつて代られ、美しかつた生垣や森田園が只管最小面積に最多の家屋を建築するがために潰滅に歸せしめられて行つたのである。事茲に至つてはいかに都市計畫を準備し、いかに幹線街路を築造し、いかに綠地の留保に努むるも、到底その不幸なる運命を免れることは出來ない。これを救ふ方法は唯一つある。即ち倫敦の膨脹力を導いてこれを衛星都市たる田園都市とし、各都市が皆夫々に完全なる自治的生活をなし、工業的設備をもつこと之である。これは倫敦にとつ

ても計るかべらざる利益であり、またこの地方全體にとりても大なる利益たるべきは論をまたないのである。

ハウードの著書を研究し、二つの田園都市の計畫を見たものは、田園都市とは何ぞやといふ定義を知りその中に含まれたる都市の理想を窺ひ知ることが出来る。近來到る處に田園都市の設立せられることを見聞するのであるが、しかしながら實はこれは上述せる二都市より外には之を見ることが出來ない所のものである。この誤りなからしめんがために英國田園都市並都市計畫協會は一九一九年に田園都市の定義を次の如くに定めたのである。即ち田園都市とは工業と衛生的な生活とのために計畫せられたる都市にして、社會生活を充分に享受し得るに足る大さを有してしかもそれより大ならず、永久的田園地帯をもつて圍繞せられかつ土地全部が公有なるかもしくは公共團體のために委託せらるゝところのものであると。

註一 Ebenezer Howard: Garden Cities of To-morrow p. 20 .

註二 C. B. Purdom: The Garden City p. 87 .

第九條 罪
 第十條 罪
 第十一條 罪
 第十二條 罪
 第十三條 罪
 第十四條 罪
 第十五條 罪
 第十六條 罪
 第十七條 罪
 第十七條之二 罪

附則略

昭和二年十一月廿一日初版印刷
 昭和二年十一月二十八日初版發行
 昭和三年一月二十日再版發行

犯罪學の理論と法制 卷四

定價金參圓八拾錢

受別料送

轉載
 不許



著作者 飯沼一省
 發行者 河英俊四郎
 印刷者 鷺見九市

東京市小石川區水邊町四十七番地

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所

東京市小石川區水邊町四十七番地

良書普及會

電話小石川一〇三四五番
六四三四番

振替口座東京六四四九番

株式會社秀英金甲利